



疑問や不審

突然ですが、みなさんは仏教の教え・浄土真宗の教えに対して、「これはおかしいのではないか、これは言っている意味がよくわからない」などといった思いを持たれたことがないでしょうか？



真光寺が属する浄土真宗本願寺派 鞍手組では、門徒さんたちに浄土真宗の教えを学んでいただく「連続研修会」を行っています（2ヶ月に一回のペースで12回の講義）。先月は「話し合い法座」といって、10人ほどのグループに分かれ、これまで学んできたことへの疑問や不審を、率直に話し合っていたいただく機会がありました。

そこで出た意見を、幾つかご紹介します。

- ・研修を受けて、「人が亡くなったら浄土に行くのだなあ」と思うようになった。
- ・歴史は理解できたが、教えの中身はチンプンカンプン。「他力本願」や「悪人正機」など、言葉が難し過ぎる。
- ・これまでは、自分の願いごとをかなえてくれるのが宗教であると思っていたが、どうもそうではないらしいことがわかってきた。
- ・日頃の行いによって救われると思っていた。まだその考えは変わらない。
- ・お念仏を喜んでいた祖母の姿が、今は少し理解できた気がする。
- ・日々の苦しみを取り去られることが「救い」だと思っていたが、講義ではそう教えられなかった。まだよくわからない。
- ・生きている間は煩惱を消し去ることなどできない。それなら、生きている間にわたしたちが救われることはないのではないか。
- ・認知症などにかかり、手を合わせることもできなくなったら、仏様から救ってもらえないのではないか。自分が自分でなくなった時に「救い」というものがあり得るのか、介護の仕事をしていて不安に感じる。

どれも、もっともな疑問・不審だと思います。私自身も仏教の勉強を始めた当初は、こうした不審をたくさん抱えていました。浄土真宗の教えが伝えるのは、「無条件の救い」ただ一つです。しかし、それになかなかうなずけない私がいる…。

座談の終わり、ご講師が門徒さんたちにこう語りかけられました。
「みなさんのご不審をどうぞ大切にしてください。ことは生老病死、私たち一人一人の人生が抱える大問題です。疑問や不審が起こり、それをもっと知りたいと思うのは、人生でいちばん大切な問題に目が向き始めたことでもあるのです。」

